

ボートレースチャリティ基金委員会

ボートレース チャリティ基金 協力報告書

2020



選手会口

選手会口は選手会所属のボートレーサーの皆さまから頂いたご寄付で、ハンセン病患者・回復者及びその子供たちに対する教育支援に使用させていただいています。

2003年度から2018年まで15年間で第1次～第4次教育支援を行い、インド、ネパール、中国、フィリピン、インドネシア、ベトナム7か国において、延べ5,525人が小中学校、高校、大学、専門学校へ通う事が出来ました。

現在は、第5次教育支援として（2019年度から2022年度まで）、WHOハンセン病制圧大使による訪問国等を対象とする支援活動を行っています。

収入/支出状況

2021年3月31日現在

年度	事業名	収入	支出	事業期間
2002	第1次教育支援	¥15,310,000	¥14,952,585	2003-2009
2008	第2次教育支援	¥12,585,965	¥11,947,129	2009-2013
2010	第3次教育支援	¥11,908,005	¥10,663,364	2010-2014
2014	第4次教育支援	¥15,000,000	¥15,613,005	2014-2017
2019	第5次教育支援	¥15,000,000	¥5,734,885	2019-2022
総計		¥69,803,970	¥58,910,968	

2020年度支援活動

第5次教育支援として、2019年度より3ヵ年計画でインドのGRETNALTESという学校を通じてハンセン病回復者子女への支援を実施しています。このGRETNALTESには2018年に笹川陽平WHOハンセン病制圧大使が訪問し、実際の教育現場を見、子供達と交流し、創設者の理念に賛同し、支援が決定しました。

事業名	支援額
インド・アンドラプラデッシュ州における回復者家族への教育支援	¥2,725,326

インド・アンドラプラデッシュ州における回復者家族への教育支援

支援先	GRETNALTES (Greater Tenali Leprosy Treatment and Education Scheme Society)
事業期間	2020年4月1日～2021年3月31日
支援額	¥2,725,326

アンドラプラデッシュ州には57のハンセン病コロニーがあり、厳しい差別や偏見から逃れてきた回復者と家族が生活しています。GRETNALTESは1981年に、患者の治療、リハビリ、形成手術の支援のために回復者が創設しました。2003年には、回復者子女に平等な教育機会が与えられない状況の改善のため、学校を設立しました。現在では3歳から中学生まで約1000名の生徒が所属し、約90名の回復者子女が在学しています。地域の生徒から授業料を集める一方、回復者子女には授業、宿泊、食事を無償で提供しています。回復者子女が教育を受けることで、将来的に定職に就き、両親をはじめとするハンセン病回復者の社会統合を促進することを目指します。

2020年度は、前年度に引き続き、実家から離れ、寄宿して学校に通う94名の回復者子女の寄宿費を支援しました。コロナ禍において、生徒の学習環境を保持することは困難でしたが、ERUDEXというツールを使用することにより、オンライン学習環境を整えることができ、健全な学習環境を整備できました。



クスマ・ラサ (5年生、バニ・ナガールコロニー出身)



私の父はアイス工場の日雇い労働者、母はメイドとして働いています。両親ともにハンセン病回復者のため、定職に就くことができません。私は3人兄弟の末っ子で兄と姉は学校に行っていませんが、私は勉強がとても好きなので、地元の公立学校に入りました。経済的な理由から私も学校をやめなければならなかったのですが、ハンセン病の回復者の子供が無償で通える学校があると知り、3年生の時にこの学校に入学しました。好きな教科は英語です。将来は貧しい人や、苦しんでいる人を助けられるような医者になりたいです。

M.ラジャ・ゴパラ・ヴァルマ (7年生、プレム・サマジャンコロニー出身)



私の父はコロニーの建設部門で日雇い労働者をしています。母は専業主婦です。父が一家の大黒柱ですが、ハンセン病の後遺症から足が動かなくなり、仕事に行くことができなくなりました。5年生まで地元の学校に通いましたが、バスや自転車で通わなくてはならなくなる上級の学校に通うことは諦めていました。この学校には6年生の時から寮に入っています。勉強して、政府の仕事に就きたいです。

チャリティオークション他口

チャリティオークション他口は、ポートルーサーの方々からご提供いただいたグッズをオークションにかけた収益金（下記、チャリティオークション）とレース優勝賞金からのご寄付等（下記、オークション以外）から成り立っています。オークション他口では、各国のハンセン病回復者やその家族の生活環境改善や経済自立支援、ハンセン病対策や災害支援など様々なプロジェクトを行っています。

収入状況

2021年3月31日現在

年度	チャリティオークション	<オークション以外> 冠レース・選手会扱・篤志家	合計
2001	¥4,208,626		¥4,208,626
2002	¥8,515,071	¥31,000	¥8,546,071
2003	¥5,061,644	¥4,455,250	¥9,516,894
2004	¥2,610,740	¥3,084,000	¥5,694,740
2005	¥4,227,306	¥1,658,495	¥5,885,801
2006	¥3,367,947	¥3,957,578	¥7,325,525
2007	¥3,232,227	¥4,554,838	¥7,787,065
2008	¥3,208,877	¥4,254,410	¥7,463,287
2009	¥1,781,454	¥2,459,735	¥4,241,189
2010	¥3,109,270	¥2,643,816	¥5,753,086
2011	¥2,212,188	¥666,646	¥2,878,834
2012	¥2,340,193	¥21,163,956	¥23,504,149
2013	¥2,172,490	¥392,458	¥2,564,948
2014	¥2,351,211	¥177,242	¥2,528,453
2015	¥2,526,979	¥1,972,600	¥4,499,579
2016	¥2,263,860	¥1,845,763	¥4,109,623
2017	¥3,216,410	¥1,601,000	¥4,817,410
2018	¥4,041,709	¥1,222,000	¥5,263,709
2019	¥3,645,546	¥1,612,000	¥5,257,546
2020	¥9,226,377	¥1,612,000	¥10,838,377
総計	¥73,320,125	¥59,364,787	¥132,684,912

支出状況

2021年3月31日現在

活動実施年度	予算	支出額	残額	繰越額	繰越後残高
2002-2003	¥10,000,000	¥10,000,000	¥0	-	¥0
2004-2010	¥16,000,000	¥14,688,352	¥1,311,648	-	¥1,311,648
2006-2010	¥10,000,000	¥8,829,808	¥1,170,192	-	¥2,481,840
2008-2013	¥16,000,000	¥14,288,688	¥1,711,312	¥2,000,000	¥2,193,152
2010-2013	¥14,000,000	¥12,436,871	¥1,563,129	¥2,000,000	¥1,756,281
2013-2015	¥30,000,000	¥27,002,616	¥2,997,384	¥4,500,000	¥253,665
2015-2016	¥8,500,000	¥7,431,194	¥1,068,806	¥715,041	¥607,430
2017	¥9,000,000	¥8,740,896	¥259,104	¥866,534	¥0
2018	¥5,261,638	¥4,757,320	¥504,018	¥504,018	¥0
2019	¥5,494,368	¥1,940,087	¥3,553,981	¥3,553,981	¥0
2020	¥8,656,607	¥6,251,613	¥2,404,994	¥2,404,994	¥0
2021	¥10,881,621				
総計		¥116,367,445		-	-

※2021年度予算に組み入れている寄附金は2020年9月30日までの入金分です。

2020年度支援活動

2020年度は、インドネシア、ネパール、バングラデシュでコロナ禍のハンセン病コミュニティの緊急支援を行いました。また、インドではコロナ禍で実施ができなかったワークキャンプ費用を生活困窮者への支援に変更して活動を実施しました。

事業名	支援額
新型コロナウイルス感染症ハンセン病コミュニティ緊急支援—インドネシア	¥2,190,966
新型コロナウイルス感染症ハンセン病コミュニティ緊急支援—ネパール	¥1,591,457
新型コロナウイルス感染症ハンセン病コミュニティ緊急支援—バングラデシュ	¥2,069,590
インド西ベンガル州コロナ支援	¥399,600
合計	¥6,251,613

新型コロナウイルス感染症ハンセン病コミュニティ緊急支援

2019 年末からの世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により、各国では都市封鎖などの感染拡大防止策が講じられ、各地で社会経済や保健政策等に様々な影響が出ました。世界各地のハンセン病患者、回復者やその家族は、生計手段の喪失、ハンセン病やその後遺症を治療するための保健サービスの利用困難、新型コロナウイルスの感染によるさらなる偏見・差別への恐れなど、様々な課題に直面しています。このような状況を受け、問題解決に持続的に貢献できる支援を届けるため、1.緊急支援物資などの提供、2.政府への積極的な働きかけ、3.積極的な情報発信、の3つを活動の柱とし、当事者が単なる支援の「受け手」になるのではなく、主体的に事業の実施に関与する支援プロジェクトを行いました。

本事業がコロナ禍のハンセン病当事者コミュニティのリハビリテーションや、当事者団体のアドボカシー／情報発信能力の強化に寄与し、他の事業のモデルをとることを目指しました。

インドネシア

支援先	YDTI、PerMaTa 南スラウェシ
事業期間	2020年5月15日～2020年8月22日
支援額	¥2,190,966



緊急支援物資などの提供

- 913 名にコロナの正しい情報と、石鹼・マスク等を配布
- 生活困窮者 511 名に食料（米、卵、油等）を配布
- 家庭訪問でメンタル面もサポート



政府への積極的な働きかけ

- 県政府、村役場、学校等への申し入れを 30 回以上実施
- 県政府から約 11 万の支給を獲得
- 行政や保健センターと協力関係を構築・強化でき、医療や教育面での支援を得られた。



積極的な情報発信

- Facebook 等での情報発信でネットニュースにも取り上げられた。
- クラウドファンディングで、障がいのある回復者の住まいである小屋の修繕費約 12 万円を集めた。

ネパール

支援先	Nepal Leprosy Trust, 4つの自助グループ (SHG)
事業期間	2020年6月10日～2020年9月15日
支援額	¥1,591,457



緊急支援物資などの提供

- 25のSHGメンバーとその家族974人に1か月分の食料と衛生用品を支給
- ホットラインを開設し、323回の相談が寄せられた
- 石鹼を使った正しい手の洗い方を練習
- 事業に参加した回復者がコミュニティ内で触媒・仲介役となり、コロナウイルスの感染予防に貢献



政府への積極的な働きかけ

- ハンセン病コミュニティに対する公共サービスの改善を訴え、行政までのラリーを10回実施し、280人が参加。
- 25の地方行政との会談し、医療や食料の支給を訴えた。
- 回復者の生計向上プログラムへの財政支援を獲得。
- 無料の医療保険や救急車の使用が認められた。



積極的な情報発信

- ラジオジングル（1週間32回）、SNS（毎週）で情報を発信し続け、新型コロナウイルスの感染予防にも貢献した。
- 近隣住民への啓発を通し、尊厳回復につながった。

Bangladesh

支援先	Lepra Bangladesh, ボグラ県他計 4 つの自助グループ
事業期間	2020 年 6 月 1 日～2020 年 7 月 31 日
支援額	¥2,069,590



緊急支援物資などの提供

- 生活困窮度の高い回復者 730 人に食料（米、豆、油等）、400 人に現金（1250 円）を支給
- 初の試みであるモバイルバンキングでの現金給付に成功し、感染拡大で人の移動や集まりが制限されるなか、迅速に支援を届ける手段を得ることができた。



政府への積極的な働きかけ

- 4 県との会議を行い、うち 2 県の担当官より、回復者団体の正式登録を支援するとの申し出があった。
- 高齢者や障がいのある当事者が利用できる政府の社会保障制度の説明や助言得られ、さらに障害者年金等が利用可能になった。
- 無料の医療保険や救急車の使用が認められた。



積極的な情報発信

- ハンセン病回復者およびその家族、地域を含め総勢 15,000 名に新型コロナウイルスの予防策や栄養の正しい情報を届けることができた。
- 回復者団体のリーダーや回復者およびその家族からなる「コロナファイターズ」を結成し、感染予防の啓発を推進した。

インド西ベンガル州コロナ支援

支援先	特定非営利活動法人わびねす
事業期間	2020年4月1日～2020年10月31日
支援額	¥399,600

わびねすではこれまで、日本人とインド人の学生を中心としたボランティアのハンセン病コロニーでのワークキャンプ事業を中心に活動を展開してきました。ワークキャンプでコロニーのインフラを整備し、生活環境を改善することで、住人の被差別意識の解消や尊厳回復や自立を支援します。同時に、ボランティアに参加する若い世代のハンセン病への偏見・差別の解消や、共同生活を通じたチームビルディング等の参加者自身の成長促進も目指します。

2019年5月頃よりコロニー周辺で結核が流行したため、同年9月に予定していたワークキャンプを中止していたところ、新型コロナウイルスの流行が始まったことから、ワークキャンプの資金を困窮するコロニー住民への支援のために使用しました。



7
コロニー



572
世帯

配布物資（1世帯あたり）


米5kg


豆類1kg


じゃがいも2kg


石鹸1個


塩1袋


スパイス
4袋


食用油
1本



準備の様子



小分けにパッキングされた米



食料配布の様子



食料配布の様子